

② T_7 に対する変換

以下の手順で定まる T, Φ, V, L については、

$$\mathcal{H}_\Phi = \mathcal{H}_T, \quad \mathcal{F}_\Phi = \mathcal{F}_T, \quad \mathcal{M}_\Phi V = \mathcal{M}_T, \quad \mathcal{L}_\Phi V = \mathcal{L}_T, \quad \mathcal{L}_\Phi = L$$

が成り立ち、かつ T の自然の固定的な部分の歴史と Φ の自然の固定的な部分の歴史とは同じだ。 V は \mathcal{F}_T から \mathcal{F}_Φ の上への一対一写像になっている。

【手順1】 $[x \in N_{01}(N_{01})] \text{ and } [Z \in F^{+}_{4,n}(x) \cup F^{-}_{4,n}(x)] \text{ and } (\alpha \in \mathbb{R}_+)$
and (x は一対一上へのだ)

という条件を満たす範囲内で x, α, Z を勝手に定める。

【手順2】 $\forall i \in \{1, \dots, n\}; [P_i \text{ を } P'_{p(i)} \text{ とも書く}]$ ことにする。

$$Z' = [\mathbb{V}_{4,n}(x, 1/\alpha^3, 1)](Z) \text{ とする。}$$

【手順3】 $T = T_7(Q_1, \dots, Q_n; Z; S, U, W, I),$

$$\Phi = T_7(Q_1, \dots, Q_n; Z'; S, U, W, I; x, 1/\alpha^3, \alpha^2),$$

$$V = V_5(x, \alpha^2),$$

$$L = e_7(\square, Z', \rho(Q_1, \dots, Q_n; I; \alpha^{-1})) \text{ とする。}$$

③ T_8 に対する変換

以下の手順で定まる T, Φ, V, F, F', L については、

$$\{\mathcal{M}_\Phi(f) | f \in F'\} \subset \mathcal{H}_\Phi \cap \mathcal{H}_T \supset \{\mathcal{M}_T(f) | f \in F\}, \quad F' \subset \mathcal{F}_\Phi = \mathcal{F}_T \supset F,$$

$$\mathcal{M}_\Phi(F') \circ V = \mathcal{M}_T(F), \quad \mathcal{L}_\Phi(F') \circ V = \mathcal{L}_T(F), \quad \mathcal{L}_\Phi(F') = L(F')$$

が成り立ち、かつ T の自然の固定的な部分の歴史と Φ の自然の固定的な部分の歴史とは h_0 が絡む部分のみ異なる。 V は F から F' の上への一対一写像となる。

【手順1】 $[x \in N_{01}(N_{01})] \text{ and } (\alpha \in \mathbb{R}_+) \text{ and } (\beta \in \mathbb{R}) \text{ and } (p \in P_n)$

and ($\alpha = |\beta|$) and (x は一対一上へのだ) and

$$[F^{+}_{6,n}(x) \cup F^{-}_{6,n}(x) \text{ が空集合でない}]$$

という条件を満たす範囲内で x, α, β, p を勝手に定める。

【手順2】 $\forall i \in \{1, \dots, n\}; [P_i \text{ を } P'_{p(i)} \text{ とも書く}]$ ことにする。